

経営比較分析表（平成29年度決算）

宮城県 延岡市

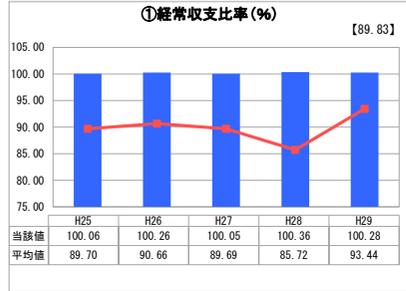
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	31.75	0.18	100.00	2,571

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
125,244	868.02	144.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
222	10.06	22.07

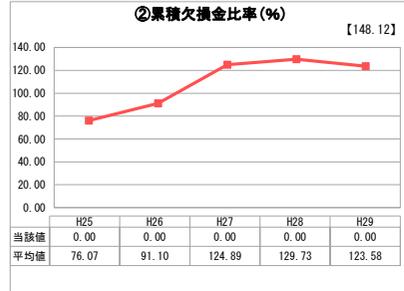
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

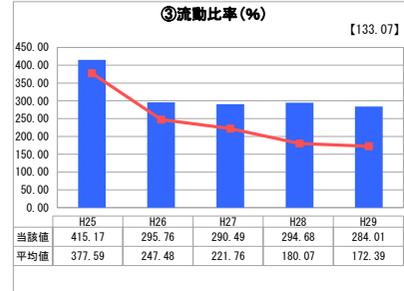
1. 経営の健全性・効率性



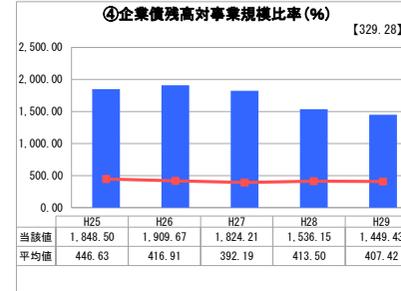
「経常損益」



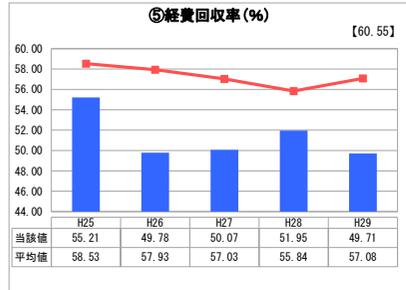
「累積欠損」



「支払能力」



「債務残高」



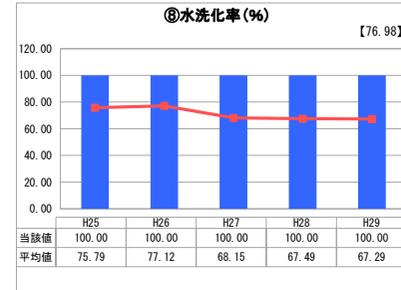
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

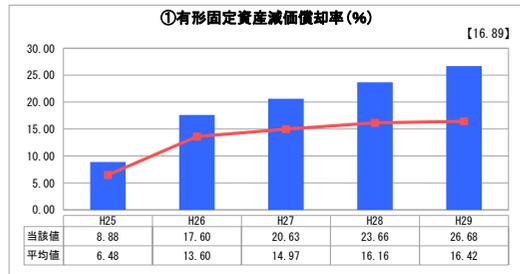


「施設の効率性」

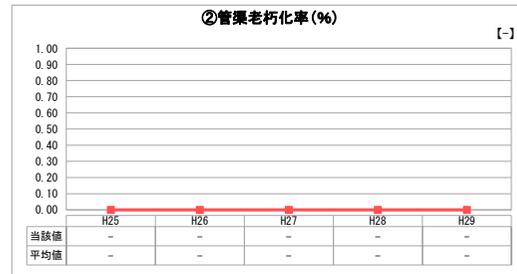


「使用料対象の捕捉」

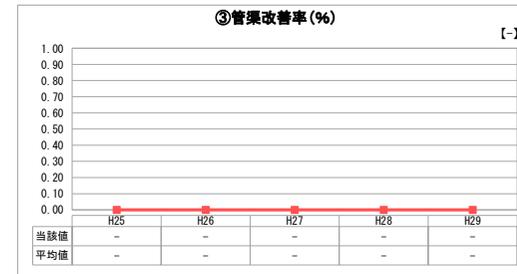
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

特定地域生活排水処理事業は、平成18年度に農業集落排水事業地周辺を「市設置型浄化槽事業」にて一体的に整備したもので、平成21年度に整備は完了しています。本市が合併浄化槽を敷設し、その利用者から使用料を徴収し、維持管理を行うものです。

・経常収支比率、流動比率、水洗化率については、100%以上で、累積欠損金も発生していません。平均値も上回っており、比較的経営の健全性は保たれています。今後も、維持管理経費の削減や使用料の確実な収入に努めます。

・企業債残高対事業規模比率は、使用料収入に対する企業債残高の割合を表しており、平均値を大きく上回っています。これは建設改良の財源を他団体より企業債に依存している状態を示していますが、近年まで浄化槽の整備事業を進めていたことが要因です。整備事業の完了後、企業債残高は着実に減少していきますので、今後も収入確保と企業債残高の減少に努めます。

・施設利用率は、平均値を下回っており、施設の効率性は決して高くない状況です。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、数値が100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しています。

本事業における有形固定資産は、平成21年度に整備完了した市設置の合併浄化槽であり、施設は比較的新しく、法定耐用年数を超えていないことから、現在必要な更新事業はない状況です。

全体総括

本整備事業は平成21年度に終了していますが、今後、整備財源として借入を行った企業債の償還が続いていきます。施設においては、まだ更新の時期に達していませんが、将来の更新時期に備え、必要に応じて、その更新財源となる使用料の見直しを検討する必要があります。なお、経営戦略については平成28年度に策定済みです。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。